

論文

中国語話者日本語学習者の広範性・深刻性 による日本語受身誤用文の誤用類型研究

史 兆 紅

外交学院副教授・広島大学文学研究科博士課程後期

要旨 本稿では『YUK タグ付き中国語話者日本語学習者作文コーパス』(2015)にある受身誤用文を調査対象とし、志波(2012)の受身タイプの分類により、誤用の広範性と深刻性を視点に中国人学習者の日本語受身誤用類型を調査し、その分類と分析を行った。(1) 誤用分布の広範的誤用タイプは、もっとも典型的なのはI結果型、II論理的関係型、AA相手への発話型である。顕著的誤用タイプはAI心理・生理的状態型、I実行型、I表現型、I表示型、I知覚型、I特徴規定型、I限定型、I位置変化型、I状態変化型、I発話型、I知的認識型、I判断型、I抽象的存在型、I社会的評価・思考・約束・発話型、II影響関係型である。これらのタイプは化石化する可能性は高い。(2) 深刻性が高いタイプは「I表現型」「I発見型」「II論理的関係型」「AI心理・生理的状態型」「AA相手への発話型」である。これらのタイプはもっとも中国語表現と違うタイプであるため、母語からの干渉が強く、誤用がもっとも深刻なタイプである。以上の分析により、日本語受身文の習得困難点も推測できる。つまり、AI文、II文、及びI文の大半、「AA相手への発話型」などは習得しにくく、また、化石化する可能性が大きい。

キーワード 中国人日本語学習者、受身誤用文、誤用の広範性、誤用の深刻性、誤用類型

Study of types of misuse of Japanese passive sentences due to the broadness and seriousness of Chinese-speaking Japanese learners

SHI Zhaohong

Abstract: In this paper, we investigate sentences with misuse of passive in the 'YUK Tagged Chinese Speaker Japanese Learners' Composition Corpus' (Yukang, 2015), and classify the passivity type¹ of Shiba (Shiba, 2012a), by the extent and seriousness of misuse. We examined Japanese passive abuse type of Chinese learners from this viewpoint, classified and analyzed them. (1) The broad misuse type of misuse distribution is most typical of I result type, II logical relation type, and utterance type to the AA counterpart. Notable misuse types are AI psychology / physiological state type, I execution type, I

expression type, I display type, I perceptual type, I characteristic definition type, I limited type, I position change type, I state change type, I utterance Type, I intellectual recognition type, I judgment type, I abstract existential type, I social evaluation thinking promise utterance type, II influence relation type. These types are highly likely to be fossilized. (2) Types of high seriousness are “I phenotype,” “I discovery type” “II logical relation type” “AI psychological / physiological state type,” and “utterance type to AA partner.” Because these types are of the type that is different from the Chinese language expression, interference from the mother tongue is strong, and the misuse is the most serious type. Through the above analysis, we can infer the difficulty of acquiring Japanese passive sentences. That is, most of the AI sentences, the II sentences, and the I sentences, “utterance type to the AA partner” and the like are difficult to learn, and there is a high possibility of fossilization.

Keywords Chinese learners of Japanese, misuse of passive sentences, scope of misuse, seriousness of misuse, misuse type

1. はじめに

志波 (2012a,b) は日本語受身文を主語と行為者の有情・非情の別によって、受身文を大きく4つのタイプ (AA文、AI文、I文、II文) と分けているに分類した。つまり、有情主語有情行為者受身文 [AN-ガ AN-ニ V-ラレル] (AA)、有情主語非情行為者受身文 [AN-ガ IN-ニ V-ラレル] (AI)、非情主語一項受身文 [IN-ガ V-ラレル] (I)、非情主語非情行為者受身文 [IN-ガ IN-ニ V-ラレル] (II)。I文、AI文、II文は日本語では別々の受身文になっているが、それらを中国語に訳すると、一般的に受身文が成立せず能動文になる。I文、AI文、II文の誤用が多いのは、中国語では三者は別々なものではなく、そこに共通のものがあるからだろう。それは、一つはI文、AI文、II文はその訳文が非情物主語文であることで一致していること、今ひとつは、I文、AI文、II文はその訳文が「被」字がない能動文であることで一致していることであろう。

(1) 日本語 I 受身文 ⇔ 中国語 I 能動文

例文：明日学校で保護者会が開かれる。

訳文：I受身文：？明天家长会在学校被举行。

I能動文：○明天学校举行家长会。

(2) 日本語 II 受身文 ⇔ 中国語 II 能動文

例文：イチゴにはビタミンCが豊富に含まれる。

訳文：I受身文：？草莓中被富含含有维生素C。

I 能動文：○草莓中富含含有维生素 C。

(3) 日本語 AI 受身文 ⇔ 中国語 AI 能動文・IA 使役文

例文：われわれは人員の不足に悩まされている。

訳文：AI 受身文：？我们被人员不足苦恼着。

AI 能動文：○我们苦恼于人员的不足。/ 我们因人员不足而苦恼。

IA 使役文：○人员不足使我们很苦恼。

なぜ日本語は I、AI、II 文は受身文になるが、中国語では能動文のほうが自然なのか。それを分析する前に、まずなぜ AA 以外の I、II、AI 文に誤用が顕著に存在しているのかについて考える。I 文、II 文は非情物主語のため、中国語では主語が非情物の場合は一般的に能動文で表し、受身文にはならないからだろう。AI 文は動作主が非情物のため、中国語ではこの場合は結果補語がない限り受身文は成立しにくい。非情物は中国語の受身文の動作主にならないため、AI 文は中国語に訳されると能動文か使役文になるので、受身文にならない。

AA 文は 3 つの状況が考えられる。

(1) 日本語 AA 受身文 ⇔ 中国語 AA 被動文

例文：和夫は兄にいじめられた。

訳文：AA 被動文：○和夫被哥哥欺负了。

(2) 日本語 AA 受身文 ⇔ 中国語 AA 被動文・AA 能動文

例文：きっとオ、あんたの人形さんはみんなに賞められますわ。(越前竹人形)

訳文：○AA 被動文：你的人偶一定会被大家赞赏的。

○AA 能動文：你的人偶一定会得到大家赞赏的。

(3) 日本語 AA 受身文 ⇔ 中国語 AA 能動文

例文：わたしは彼に手紙を手渡された。

訳文：AA 受身文：？我被他交给我一封信。

AA 能動文：○他交给我一封信。²

それは、まず、もともと AA 文は、会話テキスト以外ではその使用率は低いというのがあるからだろう。次は、中国語では被害の意味以外に受身は使われにくいことから、AA 文の誤用は、被害の意味用法以外の AA 受身文によるものに誤用文は限られてくるだろう。実際の調査結果からも分かるように、

AA 文では AA 相手型の誤用のほうが多いが、ほかの AA タイプはそれほどではないという傾向があるのはそのためであろう。

2. 研究の方法と内容

研究の方法は、志波 (2012a,b) の受身タイプの分類法を用いる。その分類法を型分類法と呼び、それに基づいて誤用タイプを詳しく分けて分析する。

誤用例文は『YUK タグ付き中国語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.3 (テキスト版) (于康 2015) の中の「受身誤用データ」として集められた「れる・られる」の誤用例文である。具体的にはその誤用例文の中の「れる・られる」受動文のうち、「れる・られる」の不使用文を誤用例文として考察する。受身誤用文には「れる・られる」の不使用と過剰使用があるが、不使用の誤用例文は受身文であり、過剰使用の場合は可能文や能動文などとも受身文ではない文になっている。よって、学習歴別に出た受動意味³の「れる・られる」の不使用文、合わせて 465 例文が型分類法による調査対象となる。

本稿は拙文「中国人学習者日本語受身文の誤用率による誤用類型研究」(2016) の続きである。その研究では、誤用の誤用率 (出現率) から誤用類型を分析した。それで、量的誤用の多い受身タイプが分かった。つまり、AI 文、II 文、I 文の非対応タイプは誤用が多く出る。AA 文の非対応タイプは、「AA 相手への発話型」だけが誤用が多いが、そのほかの誤用はあまり出ない。AA 文の対応タイプは誤用が最初の段階ではたまに出るが、全体的には誤用が少ない。しかし、誤用の分布範囲や誤用の質的分布などによる分析はまだされていなかった。本稿はその研究の続きとして、誤用が分布する学習分布段階から、典型的な誤用タイプや誤用タイプの誤用頻度をさらに分析する。具体的には学習歴別に誤用分布の広範性や受身文の種類別による誤用の比率を、日本語受身文の使用率などと合わせて誤用のタイプを分析する。前半では、誤用の分布段階など範囲を中心に考え、その詳細をそれぞれ見てみたい。後半では誤用の絶対量ではなく、4 種類の誤用文による誤用の相対量を視点に誤用の性質とかかわる誤用の深刻さから誤用のタイプを分析する。

3. 日本語受身誤用例文における AA、AI、I、II 誤用文の分布

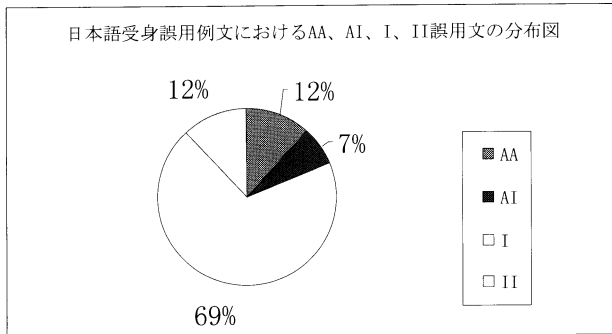
本研究の調査データは日本語受身誤用文に限られているもので、ここからは実際の受身の使用状況を把握することは難しいが、ただ誤用例文にはどの受身型の誤用率（使用率）が高いかなど、誤用文にある AA、AI、I、II の分布率は分かるので、これによって、誤用文ではどの受身型のほうが多用されているかなど受身誤用文の型分布状態を調べることができる、調査結果は下表 1 のようになる。さらにはどの受身文が多用されているかなどの使用状況もそれによってある程度推測できると思われる。なお、受身文の使用状況については本研究の範囲を超えるものであるため、今後の更なる研究が期待される。

型分類法による日本語受身文の学歴別誤用分布状況は次の表 1 のようになる。

表 1：日本語受身誤用例文における AA、AI、I、II 誤用文の出現率

受身誤用例文	AA(有情有情) % (用例数)	AI(有情非情) % (用例数)	I(非情主語一項) % (用例数)	II(非情非情) % (用例数)	用例総数 (不使用)
1 年未満	9% (3)	9% (3)	79% (26)	3% (1)	33
2 年未満	27% (12)	9% (4)	55% (24)	9% (4)	44
3 年未満	24% (9)	16% (6)	50% (19)	10% (4)	38
4 年未満	13% (15)	6% (7)	71% (82)	10% (11)	115
6 年未満	5% (4)	6% (5)	78% (62)	11% (9)	80
6 年以上	5% (7)	1% (2)	76% (107)	17% (24)	140
7 年以上	7% (1)	0% (0)	80% (12)	13% (2)	15
合計	12% (51)	7% (27)	69% (332)	12% (55)	465

図 1：日本語受身誤用例文における AA、AI、I、II 誤用文の分布図

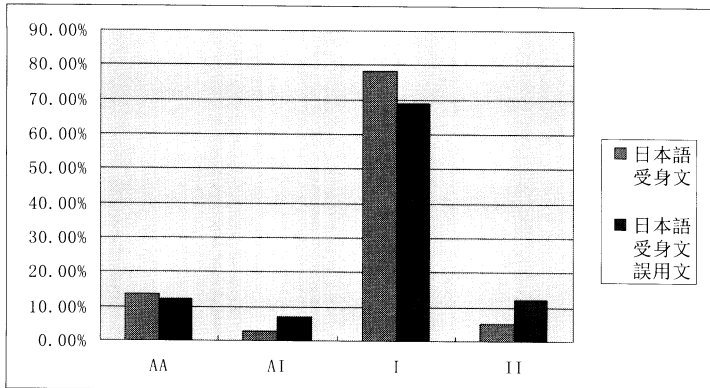


志波彩子 (2012a) は、受身文タイプを4つのテキスト（小説の会話文テキスト、小説の会話の地の文テキスト、報道文テキスト、評論文テキスト）を調査したものであるが、本研究の調査対象は作文の誤用文であるので、例文は書き言葉としての報道文や評論文に近いと思われる。報道文と評論文の調査結果については「報道文テキストは、書き言葉の特徴を持つため、やはり非情主語の非情一項受身文の割合が高い。一方で、有情者をめぐる事件の報道や、政治家や要人に関する報道も少なくないことから、有情有情受身文も一定の割合で現れているのが特徴的である。後に、評論文テキストであるが、このテキストは、非情一項受身文の割合が圧倒的に高いのが特徴である。また、非情非情受身文の割合も比較的高いが、これは、II 関係型の割合が高いためである。論理的な表現の多い文脈には、II 関係型の受身文がしばしば用いられるためだろう。」と述べている。その調査の会話文など小説テキストはテキストタイプが本研究の調査データの性質が違うものと判断して、その中の「報道文」と「評論文」の調査結果と比べることとした。

表2：志波（2012a）の調査結果（抜粋）

志波彩子 (2012) 「4つのテキストにおける受身文タイプの分布」の調査結果（報道文と評論文）					
受身例文	AA(有情有情) % (用例数)	AI(有情非情) % (用例数)	I(非情主語一項) % (用例数)	II(非情非情) % (用例数)	用例数
報道文 (使用率)	21.9% (106)	2.3% (11)	73.2% (355)	2.7% (13)	485
評論文 (使用率)	7.3% (45)	3.2% (20)	82.1% (508)	7.4% (46)	619
平均	13.7% (151)	2.8% (31)	78.2% (863)	5.3% (59)	1104

図2：日本語受身文と日本語受身誤用文の出現率比較図



日本語受身誤用例文におけるI(非情主語一項)文の使用率がもっとも高く、合計で71%を占めている。これは日本における日本語受身文(報道文)の使用率に近い。また、AA文の誤用率も志波のその使用率とともに1割台という傾向で一致している。ただし、II文とAI文のほうは分布率は低いが状況が違う。つまり、日本語「報道文」と「評論文」テキストではII文はそれぞれ2.7%と7.4%となっているが、誤用例文では学習歴別で違うというものの、3%~17%の範囲で揺れ、合計は12%で、5.3%よりかなり高くなっていることが分かった。また、AI文は誤用文のほうも平均で倍になっている。これによって、中国人学習者はII文、AI文を日本人より多く使っていることまでは断言できないが、誤用例文のみで見ると、その使用率が平均として日本の2倍~3倍と高くなっていることは確かなことであろう。しかし、II文の誤用は1割強で全学習歴に出ているが、AI文の誤用は学習歴の増加につれて減少し、最終的には見られなくなる傾向が見られる。

志波(2012a,253)はIタイプが特に他動詞中心の変化型I受身文に多く存在し、動詞は変化動詞であることがこのタイプの特徴であるということを言っている。「I変化型は、動作主の存在を含意しつつも、その人格性や行為に対する責任性を問題にせず、主語に立つ対象に変化が起きた(起きる)ことを表す受身文タイプである。非情一項受身文は、動作主を背景化することから、その動作プロセスも背景化されることが多く、対象の変化の局面が中心に捉えられる受身文タイプである。変化動詞は、こうした非情一項受身文の要素としてなじみやすく、よってI変化型は非情一項受身文において、割合的にも中心的なタイプとなっている」。これについては、中国人学習者のI誤用文がもっとも多いことから、I変化型も中心的なタイプとなっているがその実態はどうなっているかなど、次は誤用類型から誤用のタイプを詳しく見る。

4. 誤用分布の広範性による日本語受身文の誤用類型

誤用分布の段階から誤用の分布範囲を見ると、誤用のタイプは典型的誤用タイプ、顕著的誤用タイプ、一般的誤用タイプ、誤用稀少タイプ、誤用例未見タイプという5種類のタイプに分けることができる。次はその詳細をそれぞれ見てみたい。

(1) 典型的誤用タイプ

全7段階に存在している誤用タイプはI文の結果型、II文の論理的関係型、AA文の相手への発話型の3タイプである。それぞれ例文の[1][2][3]に当たる。これらは量的にも多いし、分布範囲が広く、もっとも典型的な誤用タイプと言えよう。

- [1]孔子の貢献により、今の中国人の精神が形成くした→された。(男/大学2年生/学習歴7年/滞日0/作文)
- [2]ノーベル賞は全部で六つの分野にく分けて→分かれていて、それぞれ物理学賞、化学賞、平和賞、文学賞などである。(女/中国 M1 /学習歴10年/滞日0/感想文)
- [3]多分免疫力が低下し、風邪を引いて急性胃腸炎にかかったかもしれないとお医者さんが言いました→に言われました。(女/中国 D1 /学習歴8年/滞日0/メール)

7段階に誤用が存在しているこれらの3つの誤用タイプは、母語の中国語ではともに存在しない受身表現タイプであり、日本語のように「被形成了中国人的精神/中国人的精神被形成了」「诺贝尔奖一共被分为六个领域」「被医生说了」と「被」字を入れて翻訳するときこちない中国語となる。いずれも母語からの負の転移が強く見られるタイプである。学習段階にかかわらず始終存在している誤用タイプなので、化石化になる可能性がもっとも高いタイプではないかと思われる。

(2) 顕著的誤用タイプ

6段階に存在している誤用タイプが3つで、AI心理・生理的状态型、I実行型、I表現型である。

- [4]そこで、近代的なものと封建的なものとの衝突は一群れの人々に精神的な苦悩を与え、矛盾の状態にく挟んで→挟まれてくいたのである。(中国 M3 /学習歴6年か6年以上/修論/006.txt) (AI心理・生理的状态型)
- [5]行い方:伝統的の廟会がお寺や廟の境内あるいは周辺で行われ、場所が限られていたことに対して、今日の廟会のく行なう→行なわれているく場所は

多様化し、お寺のほか、公園や観光地など宗教と全然関係ない所で行われる廟会活動が多くなっている。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0057).txt) (I 実行型)

[6] その美意識が視覚においてく表現する→表現される>時、主に色合いや表情に表われ、さらに、人間の性格や雰囲気表現にも使われてきた。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0046).txt) (I 表現型)

5 段階に存在している誤用タイプは I 表示型、I 知覚型、I 特徴規定型、I 限定型の 4 タイプである。

[7] 良友 (良き友)、一時の方便、宜節 (節度) などが付け加えられ、各方面から、明代の飲茶状況もく記した→記されている>。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0041).txt) (I 表示型)

[8] ノウハウだから、他人にく知ってもらいたくない→知られたくない>ため、とりつくろい、理想的な考え方をし、100 パーセント自分の独自のやり方で答えてくれない可能性がある。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 022.txt) (I 知覚型)

[9] 四千年前、漁撈で、よくく捕っていた→捕られていた>魚類は、次第に、人類社会の発展とともに民俗信仰の分野でも活躍するようになった。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 026.txt) (I 特徴規定型)

[10] 歴史から見れば、女性は正式な教育を受ける機会が男性より少なかった、しかも、初級以上の教育は男性に限く〇→られ>ていた。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0047).txt) (I 限定型)

4 段階に存在している誤用タイプは、I 位置変化型、I 状態変化型、I 発話型、I 知的認識型、I 判断型、I 抽象的存在型、I 社会的評価・思考・約束・発話型、II 影響関係型の 11 タイプである。

- [11] 象徴は理解の上に存在するものであり、そのためか、龍に込められた中国人の感情を熟知しないまま、日本にく輸入した→輸入された→龍は、日本における地位と待遇が中国の龍と同等にはならなかったのであろう。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 026.txt) (I 位置変化型)
- [12] このような時代背景に応じて、学校教育もく調整した→調整された→。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 012.txt) (I 状態変化型)
- [13] 「入明僧」に関して、藤家礼之助の『日中交流二千年』の中で以下のように述べく→られ→ている。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 031.txt) (I 発話型)
- [14] 元々、神々や精霊などの超自然的存在に対して、あるいはこれを信仰する人々の間において行われたことだとく理解していた→理解されていた→。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 025.txt) (I 知的認識型)
- [15] 本章では、現在では何の関係もないと思われるこの生物を、古代ではどのように考えく→られ→ていたのかを考察した。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 020.txt) (I 判断型)
- [16] いわゆる、消費を刺激するということです。大金は国民の手にく握っている→握られている→ことを国が認識すべきです。景気回復には大量な資金が必要です、その源は国民の貯蓄です。(女 / 中国 M1 / 学習歴 4 年 / 滞日 0 / 感想文 08-206.) (I 抽象的存在型)
- [17] しかし、当時は別に不思議な力がなかったもので、まだみんなに受け入れく→られ→なかった。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 031.txt) (I 社会的評価型)
- [18] 対して、(2) のような、主語の受ける影響が間接的で、対応する表現を持っていないタイプは「間接受身」とく呼んで→呼ばれて→ (1) と区別されている。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0058).txt) (I 社会的思考型)
- [19] 持続可能な発展が重要となっている現在、環境や資源の保全は共通の理念で、資源保全が一刻の猶予もく許さない→許されない→課題である。(女 / M1 / 学習歴 4 年 / 滞日 0 / 感想文 (0066).) (I 社会的約束型)
- [20] 漫画、アニメ、ゲーム、ファッションで若者の注目を引き寄せている日本の文化産業は中国でも広く伝えく→られ→ている。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / (0050).txt) (I 社会的発話型)

[21]日本人はこの考え方にに基づき、数字の好き嫌いにこれほど大きな影響がくを与える→与えられている>ことから、日本人の外来文化を吸収する能力がここからでも伺えよう。(中国 M3 / 学習歴 6 年か 6 年以上 / 修論 / 014.txt) (II 影響関係型)

4～6 段階に分布しているこれらの誤用タイプは、初級学習段階以上のものに多いことから、初級段階を除くとほぼ全段階になるので、一つのグループとして考えられ、顕著的誤用タイプとする。誤用は AI 文、II 影響関係型文の 2 タイプ以外は誤用タイプが I 文に集中しているのが特徴的である。また、化石化する可能性が高いと推測できる。

(3) 一般的誤用タイプ

3 段階に存在している誤用タイプは AA 知的認識型、AA 感情＝評価的態度型、I 無変化型、I 発見型、I 意義付け型、I 社会的関心型の 6 つのタイプである。

[22]私にとって、自分にふさわしい仕事をして、自分のすきなものを作って、小さい役目を担って、名を他人に知らく○→れ>なくても、毎日、努力を続けて、自分属するところに力を尽すというのは、私の楽しい人生だ。(8 級試験 (0048).) (AA 知的認識型)

[23]でもそれと同時に、兵士と一緒に危険を顧みないで、第一線に赴いた従軍記者にも引きつけく○→られ>た。彼らの勇気に私の心は揺り動かされた。(8 級試験 (0109).) (AA 感情＝評価的態度型)

[24]現在のまま人口増加や環境破壊が続けば、資源や環境の悪化によって、人類に警鐘くを鳴らした→が鳴らされる>。(女 / M1 / 学習歴 4 年 / 滞日 0 / 感想文 (0102).) (I 無変化型)

[25]男は外で働いている一方、女は専業主婦として家庭を持っている。過去には、日本でそういう光景がよく見かける→見かけられた>。(女 / M1 / 学習歴 4 年 / 滞日 0 / 感想文 (0123).) (I 発見型)

[26]例えば、ペニシリンのような広く知られている医薬品が生物資源から研究してく利用する→利用されている>のである。最後に私をもっとも気になるのは、資源が眠る環境を保全することである。(女 / 中国 M1 / 学習歴 4 年 / 滞日 0 / 感想文 / 09-678.) (I 意義づけ型)

[27] 現在、科学技術の発展と共に生物資源が世界中にく注目し始めた→注目され始めた>。(女／中国M1／学習歴4年／滞日0／感想文／09-366.) (I 社会的関心型)

2段階に存在している誤用タイプはAA知的態度型、AA表現的態度型、AA評価動作的態度型、AA所有関係型、AA相手への提示型、I所有変化型の6つのタイプである。

[28] 日本では、ぺらぺら話す人は、処世術的というと、人々にく信頼できない→信頼されない>。(女／学部4年生／学習歴3年半／滞日0／卒論(0091). (AA知的態度型)

[29] 定期券をもらって、乗り継ぎのときは別のチケットを買わないでも乗り継ぎができましたが、そのことは、Aくが知って→に知られて>から、だめですよ、ちゃんとチケットを買ってください、法律を守り、買うときは必ず買いなさいといわれました。(女／中国M1／学習歴5年／滞日0／通訳の録音資料05-1407.) (AA表現的態度型)

[30] 中国人は物事が「順調である時、成功した時、重視くさせる→される>時、人気になる時」に「紅色」を使う。(女／学部4年生／学習歴3年半／滞日0／卒論(0081).) (AA評価動作的態度型)

[31] 間違いなくこの女の子の母親だ。その瞬間はなんとすべての努力がく報いた→報われた>ように思った。(女／学部3年生／学習歴2年半／滞日0／感想文／013.) (AA所有関係型)

[32] を斥けるものの、病はますます悪くなってしまったため、評議の結果「泰山府君」の祭を行うと、玉藻の正体がく暴い→暴かれ>、玉藻は那須野へと逃げ帰ったのである。(中国M3／学習歴6年か6年以上／修論／031.txt) (AA相手への提示型)

[33] 生物資源を提供する以上、それに相応しい利益を分けてもらうのは当然の事です。く返還した→還元された>資金を資源保全、施設整備、人材育成などに使って、良い循環を形成するのは、資源国にとっても、利用国にとっても、(女／中国M1／学習歴5年／滞日0／感想文／09-510.) (I所有変化型)

3段階と2段階の誤用はAA文とI文になっているのが特徴的である。誤用がよく出る一般的な誤用タイプと考えられる。その中で、2段階に存在するものとして、2グループに分けられる。つまり、「AA知的態度型、AA表現的態度型、AA評価動作的態度型」の誤用は、2年未満から3～4年未満に留まっており、途中でなくなる可能性が高いタイプになる。これに対し、「AA所有関係型、AA相手への提示型、I所有変化型」のほうは4年未満から6年か6年以上に存在するので、消える可能性は低く、3段階の誤用タイプの状況と似ている。初級段階や7年以上の段階には誤用が出ていないことから、その用法は中級以上からのものと見られ、「AA知的態度型、AA表現的態度型、AA評価動作的態度型」などのような誤用は途中で減る可能性はあるとは考えられるが、いずれも上級レベルにあるもので、化石化する可能性は排除できないだろう。

(4) 誤用稀少タイプ

1段階に存在している誤用タイプはAA位置変化型、AA生理的変化型、AA社会的変化型、AA接近的態度型、AA相手への動作型、AA相手への要求的態度型、AA持ち主型、I存在様態型、II現象受身型の9タイプである。誤用がAA文に集中しており、しかも1段階にあるのが特徴的で、しかも初級段階のものが大半を占める。化石化する可能性は低いだろう。

[34]でも、その夜に、私は急にルームメートに連れ<○→られ>て外に行きました。(女/学部1年/学習歴3ヶ月/滞日0/作文(23)) (AA位置変化型)

[35]彼女はゆとりのあるキリスト教の家庭にうまれた、親の愛で育て<○→られ>ていたので、ずっとのんびり生活を送っていたが、彼に会った後、すべてが変わった。(女/学部2年生/学習歴1年半/滞日0/作文(0063).) (AA生理的変化型)

[36]このような人はもともと天の寵児だ。しかし、小人の中傷のために、彼は降格くさせて→されて>、流刑にされた。(女/大学2年生/学習歴1年/滞日0/作文(0093).) (AA社会的変化型)

[37]残念なことに、彼女は転んで、ギョーザもばらばらになって、最後は好きな人をく追いかけないことになる→追いかけれなくなる>。(学部3年

生／学習歴2年半／滞日0／感想文／011.) (AA 接近的態度型)

[38]しかし二人は突然の災難を受けた。春琴は他の人にお湯をかけく〇→られ、顔を潰した。(女／学部4年生／学習歴3年半／滞日0／卒論(0087).) (AA 相手への動作型)

[39]そして、彼女は食べ物の虫です。おいしいものに夢中になります。いつもお爺さんにく頼んで→頼まれて、買い物に行きました。ちびまるこちゃんは楽観的だし、単純だし、かわいい子供です。(女／学部2年生／学習歴1年半／滞日0／作文(0055).) (AA 相手への要求的態度型)

[40]それに、論吉は大金で欧米の教師を招聘したので、学生は学習の興味および動力がく深くなる→深められた。(中国M3／学習歴6年か6年以上／修論／017.txt) (AA 持ち主型)

[41]日本には多くの古い建物があります。そして、様々な昔の絵巻物と歴史書がよく保ちています→保存されています)。また、日本は歌舞伎とか能とか、いろいろな伝統芸術を伝承しています。(学部3年生(上)／学習歴2年／滞日0／スピーチ001.tx) (I 存在様態型)

[42]佐藤さんはまた自分の寮に戻って、奥さんと娘さんを助けに行った。しかし、その寮はあっという間に海水にく埋まって→のまれてしまった。それで、佐藤さんは帰って来なかった。(女／学部2年生／学習歴1年半／滞日0／作文(0068).) (II 現象受身型)

(5) 誤用例未見タイプ

最後に、誤用が現れていないタイプとしてAA強制使役型、AA接触型、AA催促型、AA知覚型、AA相手への態度型、AAはた迷惑型、I存在確認型、II位置関係型の8つのタイプがある。これらのタイプは、AA強制使役型は中日表現が対応しているので誤用が出ないと考えられるが、それ以外は中日受身表現が非対応のタイプなので、誤用が出ていないのは興味深い。つまり、これらのタイプのように対応していないが、誤用が出ていない。これに対して、中日受身表現が対応している受身タイプ(AA生理的変化型、AA社会的変化型、AA強制使役型)はAA強制使役型以外に誤用が出た。ただし、それが一般的誤用タイプや誤用稀少タイプに入っているのが分かる。これで、対応している中日受身タイプは誤用が出ないとまでは断言できないが、誤用分布段階数が0と1の段階であるため、誤用が少ないことだけは究明できたと

言えよう。

以上の5種類のタイプをまとめると次の表3のようになる。

表3：典型性による日本語受身文誤用タイプの分類

誤用分布から見る誤用 タイプの分類	受身文の誤用タイプ	誤用率 ⁴	使用率 ⁵	誤用分布段階数		
(1) 典型的誤用タイプ	I 結果型	16.4%	4.1%	1234567	7	
	II 論理的関係型	9.3%	2.5%	1234567		
	AA 相手への発話型	3.2%	1.0%	1234567		
(2) 顕著的誤用タイプ	I 表現型	2.9%	0.3%	124567	6	
	I 実行型	5.6%	11.8%	123456		
	AI 心理・生理的狀態型	5.6%	2.7%	123456		
	I 限定型	I 表示型	3.1%	0.7%	13467	5
		I 特徴規定型	1.9%	2.4%	23456	
		I 知覚型	2.9%	0.7%	12356	
		II 影響関係型	1.9%	1.0%	2467	
		I 社会的思考型	2.1%	11.7%	4567	
	I 社会的発話型	I 狀態變化型	1.2%	6.1%	3567	4
		I 抽象的存在型	2.1%	6.6%	2567	
		I 知的認識型	1.0%	1.8%	2357	
		I 位置變化型	2.5%	1.2%	1467	
		I 発話型	2.3%	7.0%	2456	
		I 判断型	5.2%	1.5%	1456	
		I 社会的評価型	2.1%	0.5%	1246	
		I 社会的約束型	2.7%	1.4%	2346	
			1.2%	0.4%	2345	
		(3) 一般的誤用タイプ	I 発見型	2.7%	0.3%	
I 意義付け型	6.8%		4.5%	456		
I 社会的関心型	1.2%		1.6%	356		
I 無變化型	0.6%		0.1%	245		
AA 感情＝評価的態度型	1.1%		0.2%	346		
AA 知的認識型	2.5%		1.2%	345		
I 所有變化型	AA 表現的態度型		1.0%	4.8%	56	2
	AA 相手への提示型		0.6%	0.8%	56	
			0.4%	0.0%	46	
	AA 知的態度型		0.4%	0.2%	24	
	AA 評価動作的態度型		0.6%	0.9%	24	
	AA 所有關係變化型		1.3%	0.3%	23	

(4) 稀少誤用タイプ	AA 持ち主型	0.2%	0.1%	6	1
	AA 相手への動作型	0.4%	0.2%	4	
	AA 接近的態度型	0.2%	0.3%	3	
	I 存在様態型	0.2%	1.9%	3	
	AA 生理的変化型	0.2%	0.7%	2	
	AA 社会的変化型	0.2%	4.3%	2	
	AA 相手への要求的態度型	0.4%	0.8%	2	
	II 現象受身型	0.2%	0.5%	2	
	AA 位置変化型	0.2%	2.4%	1	
(5) 誤用例未見タイプ	AA 知覚型	0.0%	0.0%	0	0
	AA はた迷惑型	0.0%	0.4%	0	
	AA 催促型	0.0%	0.2%	0	
	AA 接触型	0.0%	0.8%	0	
	AA 強制使役型	0.0%	0.4%	0	
	AA 相手への態度型	0.0%	0.2%	0	
	I 存在確認型	0.0%	4.7%	0	
	II 位置関係型	0.0%	0.2%	0	

注：誤用段階における数字について：1=1年未満、2=2年未満、3=3年未満、4=4年未満、5=5年未満・6年未満、6=6年・6年以上、7=7年以上

要するに、量的にも、分布範囲性からも誤用がもっとも集中しているのは I 文で、また、AI 文と II 文も誤用が多いことは言えるが、その中で、I 文の使用率がもともと多いことも加えて考えると、AI 文と II 文の誤用も I 文の誤用タイプと共に重要視しなければならない。AA 文の誤用は全体的に少なく、特に直接対象型の物理的動作に関する誤用や持ち主型、はた迷惑型がもっとも少ない。それは、誤用例文の性質と関係していることが考えられる。日本でもその使用率が評論文テキストはともに 0% で、報道文テキストではそれぞれ 0.2% と 0.8% である (志波 2012a)⁶ ことから、その用法が書面の場合にはまれに使われていないこともあり、作文では誤用がないとは言っても、それ以外の場合については不明である。結局会話などの場面からその使用率の検証を行うほかない。また、持ち主型や、はた迷惑型が少ないのはその用法は不慣れのため学習者に避けられているという学習者のストラテジーも考えられるので、単に誤用が少ないとは断言できない。そのほか、AA 心理的作用に関する誤用はあるが、これは比較的少ない。また、AA 相手型も割合少ないが、ただその中の「AA 相手への発話型」だけが特別な存在として、全 7 段階に分布しており、誤用率も低くないのが特徴的であろう。

5. 深刻性から見る日本語受身文の誤用類型

次は、日本語の受身使用率も考察の要素に入れて誤用のタイプを分析する。上の表は分布段階の多さという分布の広範性による量的誤用タイプの分類結果であるが、そのタイプの使用率も含めて考察すると、誤用の深刻性が分かってくる。その中で、I 表現型と I 発見型の誤用率は使用率の 10 倍となっているので、もっとも誤用の出やすいタイプとなるだろう。次は誤用率が使用率の 4～5 倍前後になるもので、I 表示型、I 判断型、I 結果型、I 知覚型、II 論理的関係型、I 発話型などがある。そのほか、AA 相手への発話型、I 社会的評価型、AI 心理・生理的状態型などの誤用率が使用率の 2、3 倍になるので、誤用が出やすいタイプである。つまり I 文の中で、以上のタイプは「れる・られる」の不使用方法が出るもっとも深刻度が高いタイプであろう。

これに対して、誤用率が使用率より極端に少ないタイプもある。その中で AA 社会的変化型が 21.5 倍、AA 位置変化型が 12 倍、I 存在様態型が 9.5 倍少ない。また、5 倍ぐらい少ないのは I 社会思考型、I 社会的発話型、I 所有変化型、I 存在確認型である。2、3 倍少ないのは I 状態変化型、I 位置変化型、I 実行型である。それは、これら AA 文と I 文に集中する日本語受身文のタイプはその誤用の出現率が低い原因はいずれも中国語では受身文としては成り立ちにくいからであろう。

表 4：日本語受身文誤用の深刻性による誤用タイプ

日本語受身文誤用の深刻性による誤用タイプ				
深刻度	誤用タイプ	日本語受身文使用率との比較		
1 位	I 表現型・I 発見型	誤用率が使用率の	9.7 倍	多い
2 位	I 表示型 I 判断型 I 知覚型 I 結果型 II 論理的関係型 I 発話型		4.7 倍	
			4.2 倍	
			4.2 倍	
			4.0 倍	
			3.7 倍	
3 位	AA 相手への発話型 AI 心理・生理的状態型 I 社会的評価型	3.5 倍		
		3.2 倍		
		2.1 倍		
			1.9 倍	

1位	AA 社会的変化型	誤用率が使用率の	21.5倍	少ない
2位	AA 位置変化型 I 存在様態型		12.0倍 9.5倍	
3位	I 社会的思考型 I 社会的発話型 I 所有変化型 I 存在確認型		5.6倍 5.1倍 4.8倍 4.7倍	
4位	I 位置変化型 I 状態変化型 I 実行型		3.7倍 3.1倍 2.1倍	

誤用率が使用率より多いほうでは、深刻度が1位と2位にあるのはほとんどI文のタイプで、3位にもI文の社会的評価型があるから、I文、特に表4に挙げられたこれらの誤用はその深刻度が一番になる。そして、「II論理的関係型」が深刻度2位である。AI文とAA文の誤用も多いことが言えるが、その中で、I文の使用率がもともと多いことも加えて考えると、AI文と「II論理的関係型」、「AA相手への発話型」の誤用が深刻であろう。これらの誤用タイプも誤用深刻度が1位と2位のI文の誤用タイプと共に重要視しなければならない。

また、誤用率が使用率より少ないほうでは、I文のタイプとAA文のタイプになっている。特に極端に少なくなっているのは、その用法が未習得のためか、またはその用法の不慣れによる使用回避であろう。いずれにせよ、中国語ではこれらのタイプはほとんど受身文としては表現される習慣がなく、表現の違いによりその習得が困難であることは否定できないことであろう。

6. 結論

以上で、誤用分布範囲の広さ、4種類の受身誤用文の比重によるその誤用の深刻さという2つの側面から受身文の誤用タイプをそれぞれ分類してみた。分布範囲からは誤用の変遷状況や化石化の傾向が明白になり、深刻性からは誤用の典型性や重大性などが分かるので、そこから、中国語母語話者日本語学習者の日本語受身誤用の実態を把握することができる。さらに、そこから、誤用対策や学習指導など教授法と教材などの開発につなげられるであ

ろう。

本稿の分析で分かったことは次の通りである。(1) 誤用分布の広範的誤用タイプは、もっとも典型的なのはI結果型、II論理的関係型、AA相手への発話型である。顕著的誤用タイプはAI心理・生理的狀態型、I実行型、I表現型、I表示型、I知覚型、I特徴規定型、I限定型、I位置変化型、I状態変化型、I発話型、I知的認識型、I判断型、I抽象的存在型、I社会的評価・思考・約束・発話型、II影響関係型である。これらのタイプは化石化する可能性が高い。(2) 深刻度が高いタイプはI表現型、I発見型、II論理的関係型、AI心理・生理的狀態型、AA相手への発話型である。これらのタイプはもっとも中国語表現と違うタイプであるため、母語からの干渉が強く、誤用がもっとも深刻なタイプである。

以上の分析により、日本語受身文の習得困難点も推測できる。つまり、AA文はほとんど初級段階で習得できるだろう。ただし、「AA相手への発話型」などは習得しにくい。AI文、II文、I文の多くは全体的に習得しにくい。その大半は化石化する可能性が大きいと考えられる。

7. 課題

研究課題として多くのものが残されている。(1) 会話文テキストにおける日本語受身誤用タイプの実証研究。(2) 「れる・られる」の過剰使用文における受身誤用分析。(3) 正用も含めた日本語受身文の使用実態の究明。(4) 日本語受身文習得過程における誤用の化石化の実態究明。(5) 日本語受身文の誤用対策と教授法についての研究。これらの問題は後日の課題としたい。

参考文献：

- [1] 于康 (2015) 『YUK タグ付き中国語話者日本語学習者作文コーパス』 Ver.3 (テキスト版)
- [2] 志波彩子 (2012a) 「4つのテキストにおける受身文のタイプの分布」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』 No.9. pp 233-294
- [3] 志波彩子 (2012b) 『コーパスに基づく日本語受動文の実態』東京外国語大学総合国際学研究院
- [4] 史兆紅 (2017) 「基于语料库的中国日语学习者日语被动句误用类型研究」『外交評論』 2017.4. (刊行予定)

注

¹ Four major categories of Japanese passive sentences by Shiba (2012a): AA=Passive sentence of animal subject and animal actor, AI=Passive sentence of animal subject and inanimate actor, I=Passive sentence of inanimate subject, II=Passive sentence of inanimate subject and inanimate actor.

² 以上の例文は志波 (2012) 「4 つのテキストにおける受身文のタイプの分布」による。

³ 「れる・られる」誤用文には受動意味の誤用文のほか、可能、尊敬、自発意味の誤用文もあるが、これらを考察対象としない。

⁴ 誤用率は本研究の受身文の誤用率のことである。つまり、受身文の誤用文が受身誤用文全体に占める割合である。

⁵ 使用率は日本語受身文の使用率のことで、志波 (2012a) 「評論文テキストと報道文テキスト」の AA、AI、I、II の使用率の平均数を取ったものである。

⁶ 持ち主型とはた迷惑型の使用率は、小説の会話テキストでは、それぞれ 1.0% と 6.6% で、小説の地の文テキストでは、添えぞれ 0.5% と 1.3% である。つまり、会話などでもその使用率が低いので、実は持ち主型とはた迷惑型の受身文は日本ではそれほどたくさん使われていないタイプではないかと思われる。